

原油市場展望

2021年10月

 株式会社 **日本総合研究所**

調査部 マクロ経済研究センター

<https://www.jri.co.jp/report/medium/oil/>

◆本資料は2021年10月1日時点で利用可能な情報をもとに作成しています。

◆ご照会先：調査部 副主任研究員 松田健太郎 (Tel:080-4176-4439 Mail:matsuda.kentaro@jri.co.jp)

- ◆日本総研・調査部の「経済・政策情報メールマガジン」は下記URLから登録できます(右側QRコードからもアクセスできます)。新着レポートの概要のほか、最新の経済指標・イベントなどに対するコメントや研究員のコラムなどを随時お届け致します。
<https://www.jri.co.jp/company/business/research/mailmagazine/form/>

本資料は、情報提供を目的に作成されたものであり、何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。本資料は、作成日時時点で弊社が一般に信頼出来ると思われる資料に基づいて作成されたものですが、情報の正確性・完全性を保証するものではありません。また、情報の内容は、経済情勢等の変化により変更されることがあります。本資料の情報に基づき起因してご閲覧者様及び第三者に損害が発生したとしても執筆者、執筆にあたっての取材先及び弊社は一切責任を負わないものとします。

<メルマガ> <Twitter>



原油価格見通し：高値圏での推移が持続

原油

◆現状：70ドル台半ばへ上昇

9月のWTI原油先物価格は、上旬にハリケーン・アイダの襲来による米原油生産施設の操業停止が上昇圧力となった一方、米経済指標が市場予想を下回ったことなどが重石となり、60ドル台後半を中心に一進一退。

中旬は、米原油在庫が縮小したほか、ハリケーン・ニコラスの襲来により一段と供給が減少するとの見方が強まり、70ドル台乗せ。月末にかけては、①OPECプラスの一部で増産が難航しているとの観測、②中国や欧州などでのエネルギー不足、などを手掛かりに70ドル台半ばへ続伸。

◆投機筋の買い越し幅は横ばい

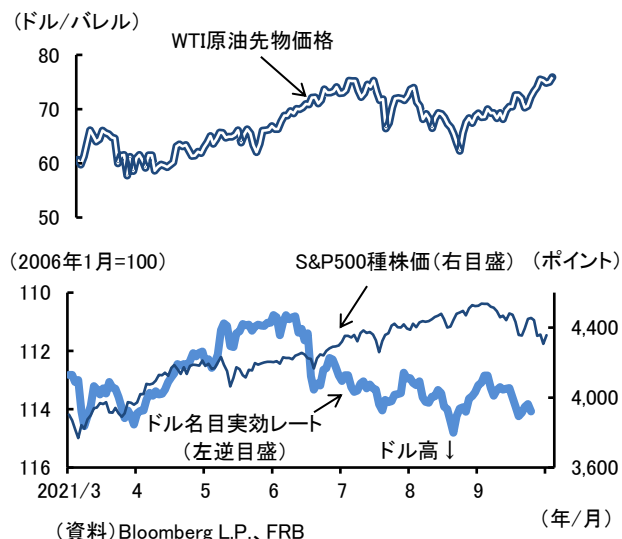
投機筋の原油先物買い越し幅は、上旬に、OPECプラスによる増産ペースの維持決定などから小幅縮小し、その後は横ばい圏で推移。

◆見通し：当面高値圏での推移

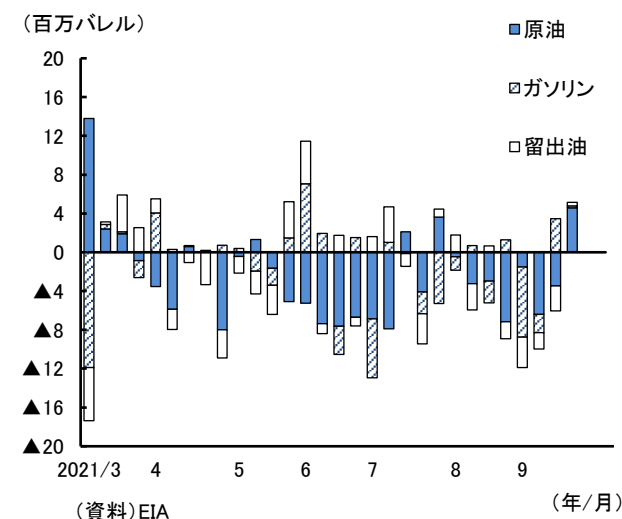
先行きを展望すると、原油価格は強含みの地合いが続く見込み。原油供給の拡大が緩やかにとどまる一方、世界的なエネルギー需要が旺盛である結果、需給のひっ迫感が意識されやすい展開を予想。

もっとも、来春以降は、OPECプラスや米シェールオイルによる供給拡大、暖房需要などの一巡に伴い、需給のひっ迫感が緩和され、原油価格は徐々に水準を切り下げる見込み。

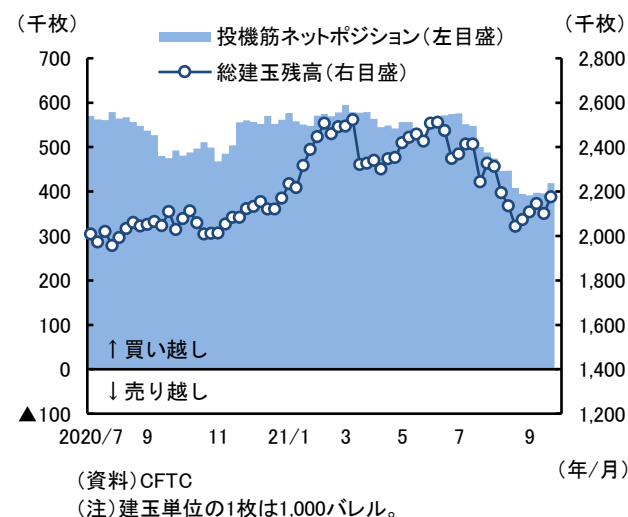
原油価格と株価・為替レート



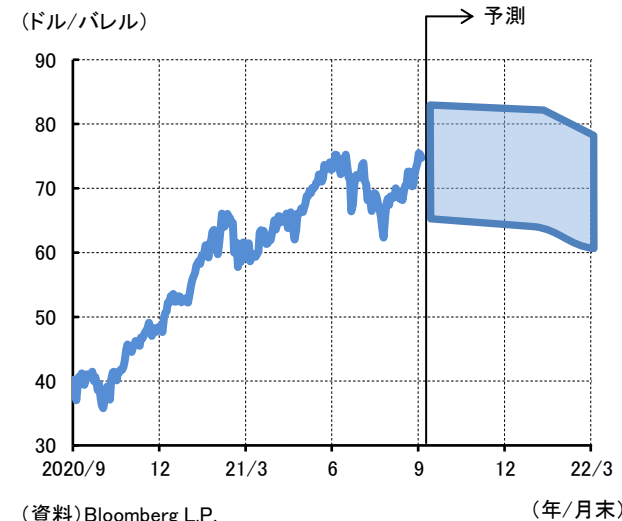
米国の原油・石油製品在庫(前週差)



WTI原油先物ポジション



WTI原油先物価格見通し



トピック：原油価格は上昇圧力がかかりやすい地合いに

◆ハリケーンの影響は緩和

WTI原油先物価格は、7月以来の高値である70ドル台半ばへ上昇。この要因の一つは、8月末のメキシコ湾へのハリケーン襲来。メキシコ湾沖合の原油生産施設は一時ほぼ全面停止となったことから原油需給がタイト化。足許では生産施設の再稼働とともに原油生産も底打ち、この要因による価格上昇圧力は徐々に緩和する方向。

◆原油価格は一段の上振れ余地

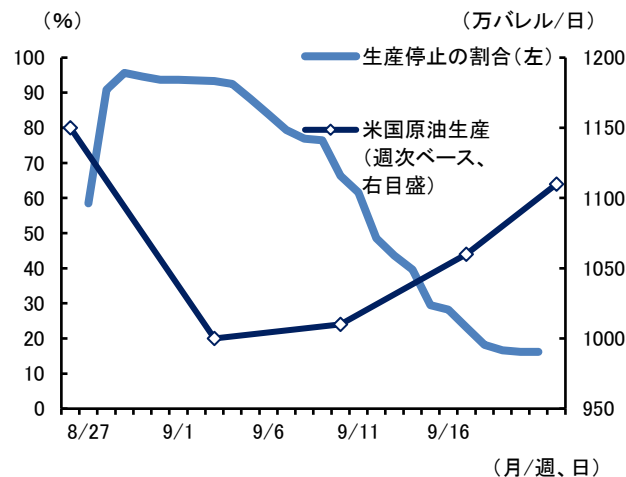
ただし、当面は以下の3点から原油価格に上昇圧力がかかりやすい状況が続き、80ドル超へ上振れる可能性あり。

第1に、OPECプラスの増産が小幅にとどまること。10月4日の会合では、増産ペースは日量40万バレルに据え置かれる公算大。新型コロナ変異種を巡る不透明感が根強いことを背景に、増産ペースの加速には至らない見込み。また、一部のOPEC加盟国では8月の生産が目標を下回る状況。コロナ禍での投資抑制などから機動的な増産が難しくなっている可能性も。

第2に、米国のシェールオイル生産回復の遅れ。原油価格がコロナ禍前の水準へ持ち直すなか、リグ稼働数の増加ペースは鈍く、19年末対比で6割程度にとどまっている状況。加えて、リグ稼働率の上昇から増産につながるには3～6ヵ月程度のラグがあるため、早期の供給増加は見込み薄。

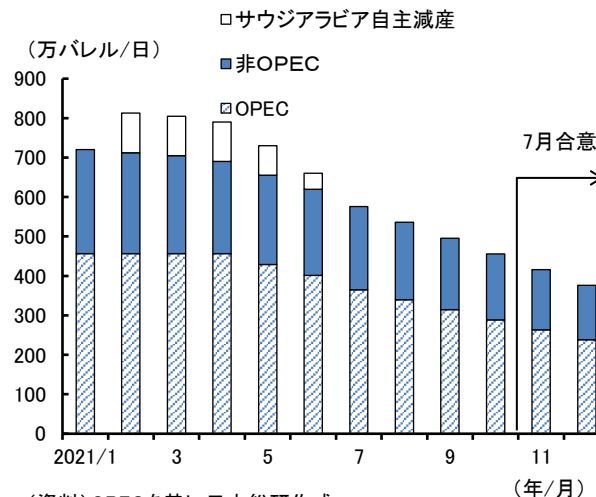
第3に、欧州に端を発する天然ガス価格の高騰。世界的な景気回復や昨冬の暖房需要の長期化などから天然ガスの在庫は低水準。原油価格に及ぼす直接的な影響は限られるとみられるものの、天然ガスの供給不足や価格高騰が原油への代替需要を高め、原油価格を押し上げる可能性。

米国の原油生産とメキシコ湾生産施設停止状況



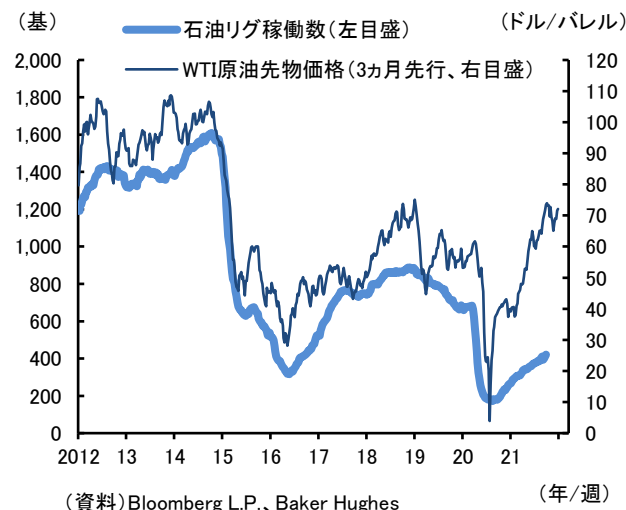
(資料)BSEE、EIAを基に日本総研作成

OPECプラスの減産幅



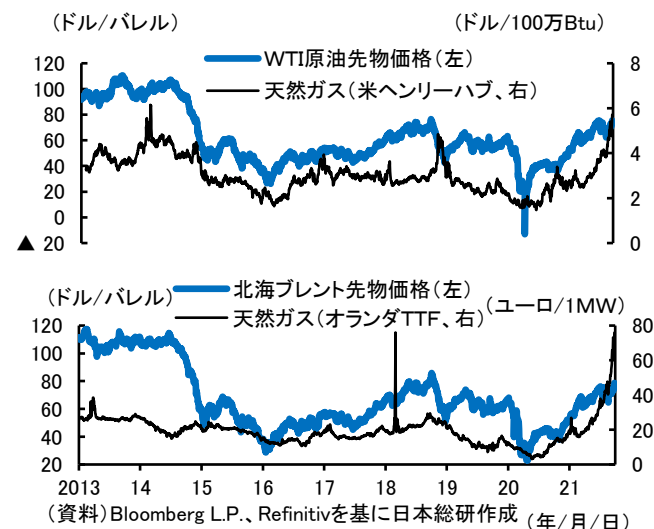
(資料)OPECを基に日本総研作成

米国の石油掘削設備(リグ)稼働数



(資料)Bloomberg L.P.、Baker Hughes

原油と天然ガスの期近物価格



(資料)Bloomberg L.P.、Refinitivを基に日本総研作成